

2-1 収穫後の栽培種の種子は、いつ頃発芽する

- ①すぐ発芽する
- ②すぐには発芽しない
- ③品種グループによって異なる

植物の種子は、収穫後しばらくは発芽しない期間があります。これは種子が休眠しているためです。休眠には2種類があり、自発休眠と多発休眠で、自発休眠中は発芽の好適条件を与えても発芽しません。自発休眠期間が終わると発芽可能となりますが、実際の自然条件下では発芽しないことがあります。これは、発芽の好適条件が整っていないためで、これを他発休眠しているといいます。

前にも述べたように、栽培種は幾つかのグループに分類されますが、そのグループによって自発休眠と他発休眠の期間や好適発芽条件が異なっています。晩生グループの亜種バージニアに属する品種では自発休眠が深く、好適発芽温度もやや高めです。一方早生グループの亜種ファスティギータに属する品種は自発休眠が浅く、収穫後まもなく、またやや低めの温度でも発芽します。

軽度に病傷害を受けた種子が、あまり休眠せずに発芽してくることがあります。被害の少ない内に、子孫を残すためにあわてて発芽しようとしてるようにも思えます。生物の生命力の強さと巧妙さに感心します。

また、種子を莢に入ったまま土に埋めると2つの種子のうち多くは1個しか発芽せず、これは養水分競合による共倒れを防ぐためであろうという報告があります。なかなか賢い戦略ですね。

正解 ③